

1 貯蔵花粉の発芽試験を実施します。

	受付日時	受付場所	検査日	結果報告	
(旧)第1選果場管内	3月11日(火) 午前9時~10時	梨会館	3月12日(水)	3月13日(木)	梨会館入り口に貼り出します。 (射水市は別途対応)
(旧)第2選果場管内	3月12日(水) 午前9時~10時	梨会館	3月13日(木)	3月14日(金)	

※本年から貯蔵花粉の馴化（温度に馴らすこと）は当方で行います。つきましては、提出する花粉を冷凍庫から出すタイミングを下記のとおり変更してください。

- ・ 去年まで：受付前日に試験に使う分のみ冷凍庫から取り出し、梨会館へ提出（受付日に発芽試験）
- ・ 本年から：受付前日の夜または当日の朝に試験に使う分のみ冷凍庫から取り出し、梨会館へ提出（受付後に当方で馴化し、翌日に発芽試験）

2 病虫害対策について

(1) 黒星病対策（落葉処理・芽基部病斑除去）

①落葉処理

- ・ 令和6年秋は雨の日が多かったため、落葉処理が遅れています。
- ・ 3月中旬頃から孢子飛散が始まるので、それまでに落葉処理を確実に実施してください。また、処理済みの園地も落葉が原形のまま残っていないか確認し、図1などのように落葉処理が不十分な場合は、再度落葉処理を行ってください。
- ・ 特に、園地外周部（周囲柱の下など）や周囲の沿道、側溝に落葉が残っている場合が多いので、必ず確認してください。
- ・ 落葉の放置や落葉処理精度が低い園地があると、自園地のみでなく、隣接園地にも被害を及ぼします（産地全体での取り組みが重要です）。



図1 落葉処理が不十分な園地例  
葉が原型のまま残っている

②芽基部病斑除去

- ・ りんぼう脱落期に枝をふるってもりん片が落ちない芽や枯れたりりん片が残っている芽は、黒星病に罹病している恐れがあるので、速やかに切除し園外へ持ち出し処分してください。
- ・ 黒星病の芽基部病斑は、見つけ次第摘み取って園外に持ち出し、適正に処分してください(特に受粉前に作業の徹底を図りましょう)。

※黒星病対策は、平成28年1月に配布された「呉羽梨黒星病対策指針」や「黒星病Q&A集」、平成31年1月に配布された「落葉処理マニュアル」なども参考にのり確に取り組みましょう。

(2) カイガラムシ類対策

①農薬防除

- ・ カイガラムシ類の防除には、休眠期のマシン油乳剤散布が最も効果が高いため、全園地で防除を行ってください。
- ・ 雪の影響などで3月上旬までにマシン油乳剤を散布できなかった場合は、3月中下旬(萌芽期)のデランフロアブルにアブロードフロアブルとアビオンEを加用して散布してください(ただし、休眠期のマシン油乳剤散布に比べ、殺虫効果はやや劣ります)。
- ※3月中下旬(萌芽期)の防除日の詳細は、次号の栽培情報でお知らせします。
- ・ 立ち木状態の交配樹については、カイガラムシ類の発生源になっているので、特に確実に入念に防除を行ってください。

散布時期	薬剤名および濃度		10a 当たり散布量	主な対象害虫	防除実施日
2月下旬 ~3月上旬 (休眠期)	トモノール S ハーベストオイル 機械油乳剤 95	50 倍 50 倍 20 倍	3つのマシン油乳剤から いずれか1つを選んで散布	カイガラムシ類、ハダニ類	
3月中下旬 (萌芽期)	デランフロアブル アブロードフロアブル アビオンE(展着剤)	1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍			

【マシン油乳剤散布時の注意事項】

- ① 樹勢が極端に弱っている樹への散布は控えてください。
- ② 散布は暖かくて風のない日で、散布後の数日間、降雨の心配が無い日を選んで行ってください。
- ③ 本剤は主成分が油のため、近隣の民家や車、通行人等にかからないよう、いつも以上に注意してください。

② 耕種的防除

- ・ 立ち木状態の交配樹等で樹高が高い、棚仕立て樹で主枝先端が高い場合(えんとつ状態)は、できるだけ切り下げてください。
- ・ 古い側枝の短果枝群(しょうが芽)は、芽の整理を行ってください(裏面参照)。
- ・ カイガラムシ類の付着が多いところでは、マシン油乳剤等の散布前にワイヤーブラシ等で削り落としてください。
- ・ この他、粗皮の隙間にはナシヒメシンクイやハダニ類等が越冬しています。粗皮削りを行うとともに、輪紋病のイボ皮も削り落しましょう。

### 3 誘引・花芽整理

#### (1) 誘引 (棚付け)

- ①側枝間隔は40cm程度を基準に、枝が交差しないように配置するとともに、弓なりにならないよう、棚に水平に誘引しましょう。
- ②側枝バランスの目安として、「幸水」は長果枝50%、2年生側枝30%、3年生側枝20%、「豊水」は長果枝と2年生以上の側枝の比率が1:2程度になるよう、古い側枝を積極的に更新しましょう。
- ③予備枝は、優良な長果枝育成に重要であるとともに樹勢維持強化にも役立つので、できるだけ多く配置するように心がけてください。

#### (2) 花芽整理

短果枝や短果枝群(しょうが芽)上に複数ついている花芽の中から余分な花芽を整理することで、開花・結実時の貯蔵養分の消費が少なくなるとともに、その後の摘蕾、摘果作業の省力化につながります。また、薬剤の到達性も向上し、黒星病やカイガラムシ類等の防除効果が高まります。

整理方法は、図3のとおり、側枝の外側を向く充実した花芽1個を残し、その他は果台を残して花芽をかき取ってください。台座が長い短果枝群は基部近くまで切除してください。また、下芽、弱小花芽は他に十分花芽がある場合には切除してください。

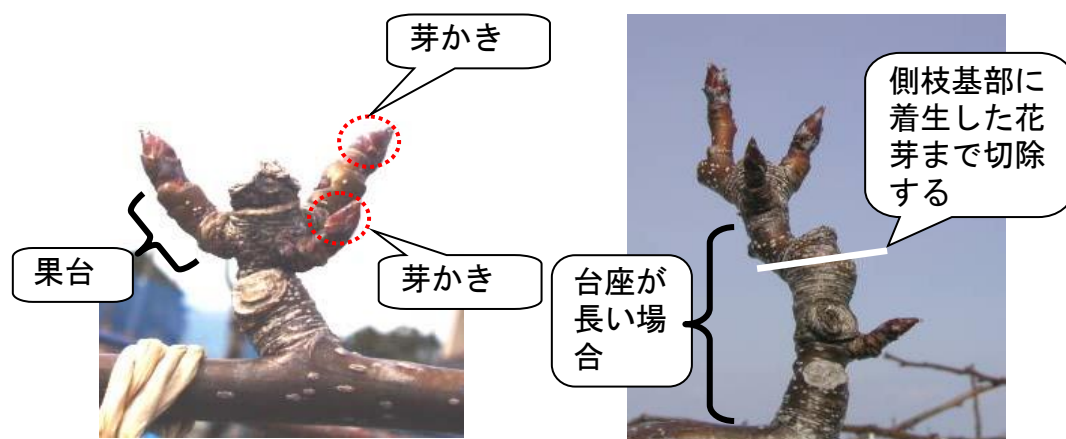


図2 花芽整理の例

### 4 凍害対策

苗木～4年生程度までの樹は、発芽前頃(3月中下旬～4月初旬頃)から急速に耐凍性が弱まり、抵抗力が低下します。凍害は、日中の気温が高くなり(15℃以上くらい)、朝の気温が-2～-3℃程度まで下がる時期に発生しやすくなります。

凍害を受けると苗木や若木は樹勢低下や枯死につながる場合があります。そのため、下記の凍害対策を行ってください。

#### (1) アルミ蒸着シートの巻き付け

(日中の温度上昇の抑制: 図4)

主幹部の地際から80cm程度の高さまで2～3周巻き付ける。使用する資材は農業用のアルミ蒸着シート(穴あきタイプ、JAで購入可)など。

#### (2) わら巻き (保温: 図5)

上記と同様に主幹部にわらを巻く。まとめて仮植してある場合は、コモ等を巻いて保温に努める。

※霜害対策については、今後ご案内します(昨年同様、梨園地低温警報メールを発信予定です)。



図3 アルミ蒸着シートの巻き付け



図4 わら巻き

### 5 春肥の施用

春肥は、JAの肥料注文書に記載されている施肥例を参考に、3月中下旬頃に施用しましょう。

### 6 開花予想

2月17日現在の開花予想日は右表のとおりで、「幸水」は前年、平年よりもやや遅い予想となっています。ただし、今後の気温に大きく左右される可能性があります。

最新の情報については今後発行する特報や梨メールでご確認ください(梨メールは3月初旬から配信予定です)。

品種名	令和7年予測 (2月17日現在)	
	開花始め (前年・平年差)	満開日 (前年・平年差)
幸水	4月17日 (+2・+1)	4月21日 (+4・+1)
豊水	4月12日 (±0・-1)	4月15日 (+1・-2)
あきづき	4月16日 (+1・+3)	4月19日 (+3・+3)
新高	4月11日 (±0・±0)	4月12日 (±0・-2)

※前年・平年差は、プラス値は「遅い」、マイナス値は「早い」を表す

### 7 農業サポーターがお手伝いします

平成18年よりサポート活動を開始して以来、農業者の皆さまのご支持を得て、梨の摘果作業などにおいてサポート活動を行っています(主な活動内容: 人工受粉、摘果、収穫等)。

農繁期に人手が足りずお困りの方や、年間を通じてサポートが必要な方は、下記までご相談ください。

【お問い合わせ】 株式会社シーエーピー活動支援室(サポート業務窓口; TEL.076-439-3311)  
富山市農林水産部営農サポートセンター(TEL.076-429-4504)

### 8 苗木の新植、老齢樹の改植、園地整備などに補助事業が活用できます

未耕作園地への苗木の新植、老齢樹園地の改植、小規模園地整備(傾斜の緩和、排水路の整備など)などに、国補助事業(果樹先導的取組支援事業など)が活用できます。

なお、事業実施にあたっては、①新植、改植は事業計画承認後に苗木を購入すること、②地続きでおおむね2アール以上であること、③小規模園地整備は地続きでおおむね10アール以上であることなど、要件があります。事業活用をご検討される方は、下記にご相談ください。

【お問い合わせ】 富山県富山農林振興センター担い手支援課園芸振興班 担当: 濱谷 (tel.076-444-4523)